

## アラバマ青少年合唱団が習志野市を訪れました 習志野高校との交流コンサートは感動の渦 日向洋美（国際交流部会）

習志野文化ホールの優雅な孔雀の「祝舞」の緞帳があがると、姉妹都市タスカルーサから来日したアラバマ青少年合唱団の少年少女が少し緊張した面持ちで歌い出しました。さわやかで清々しい歌声は1000人余りの聴衆の心に沁み入りました。曲は「ダニーボーイ」やアメリカ・ヨーロッパの歌曲の他に、この日のために日本語で練習を重ねた日本の童謡「ほたる来い」「証城寺の狸囃子」もありました。特に「証城寺の狸囃子」は、来日公演が決まった後で合唱団監督のプロクターさんに、日本の友人から偶然譜面が送られてきた曲で、プロクターさんは証城寺が千葉にあることも来日するまで全く知らなかったそうです。

\*



ドフ・プロクターさんの指揮でさわやかな歌声を披露

この公演は沢山の偶然が重なって実現しました。昨年2014年6月、タスカルーサの高校生が来日した際、私はタスカルーサ市国際交流委員のリサ・キーツさんと一緒に学生たちの交流のために習志野文化ホールを訪ねました。たまたまそこにいらしたのが習志野文化ホールの松盛理事長でした。長年教育長として姉妹都市との青少年交流に関わっていた理事長はリサさんとは旧知の仲でした。その時、リサさんが「友人が教えている合唱団の設立30周年記念コンサートをこの素晴らしいホールで出来ないでしょうか？」と理



客席で楽しむ合唱団のメンバー

事長に来日公演の可能性を尋ねました。そして急遽楽屋や控室を見せていただき、見て回りながら写真をアラバマ青少年合唱団に送ったところ、見学を終えるころには、アラバマ青少年合唱団の責任者の方から「こんな素敵なホールで公演が出来たら夢のようです。なんとか実現したい。」と返事をもらいました。その後、習志野高校吹奏楽部が共演して下さることになり、習志野市の協力もいただき、5月29日に公演のはこびとなりました。

\*

アラバマ青少年合唱団は30年前、タスカルーサにある教会の男子だけの聖歌隊30名からスタートし、今では小学校1年生から12年生（高校3年生）の男女200人の合唱団になりました。今回総監督として学生とその親総勢119名を率いて来日したのはプロクターご夫妻です。ご主人のドフさんはバリトン・



習志野高校吹奏楽部の迫力あるパフォーマンス

テナー歌手、奥様はソプラノ歌手としてドイツとオーストリアで10年間歌い、その後アラバマ青少年合唱団を指導するようになったそうです。ご夫妻は今回、生徒に厳しく指導した後、必ず“Thank you!”と言っていたのが印象的でした。

\*

公演の後半は習志野高校吹奏楽部の華やかで重厚な演奏でした。日本でもトップクラスの演奏は、優れた指導者と部員のたゆまぬ努力と才能によって生み出されましたが、過去に姉妹都市との交流演奏でパフォーマンス等に大きな影響を受けたと聞いています。そしてフィナーレは日米両校のコラボレーションの歌…会場の聴衆も一体となって感動の渦に巻き込まれました。

\*

公演後は隣接するモリシアホールで、国際交流協会主催の歓迎パーティが開かれました。



ご自慢の声を聞かせてくれたドフ・プロクターさん

出席者は約350人で、習志野市、NIAやアラバマ、習志野両校の関係者の他、昨年タスカルーサに派遣された高校生（現在は大学生も）、他校の吹奏楽部員、午前中に見学に行きお世話になった千葉工大生やNIAユースの若い人が一堂に集い、交流を深めました。公演の熱気が冷めない中、総監督のドフさんが「アベマリア」を歌い、パーティを一層盛り上げて下さいました。

\*

最後になりましたが、後援・協賛いただいた市や文化ホールの関係者の皆様、企業局や各種クラブの方々に紙面をお借りしてお礼申し上げます。そして何ヶ月もこの日のために働いたNIA会長と事務局スタッフはじめ、国際交流部会の仲間達（当日は、アラバマのママ5人を含めボランティア40名で運営）にも心からの感謝の念を捧げたいと思います。



歓迎パーティで盛り上がる日米の若者